

## 第4回 中国圏広域地方計画学識者等会議 議事要旨

■日時:令和5年5月8日(月)～16日(火)

■場所:個別対面 及び 個別WEB

### 議 題

#### ■ 第1部 骨子の公表について

1. 次期広域地方計画の策定スケジュールについて 資料1
2. 次期中国圏広域地方計画骨子案 資料2-1 資料2-2

#### ■ 第2部 地域生活圏について

3. 地域生活圏に関連する事例について 資料3

#### ■その他

### (配布資料)

- ・資料1:次期広域地方計画の策定スケジュールについて
- ・資料2-1:次期中国圏広域地方計画骨子案
- ・資料2-2:次期中国圏広域地方計画骨子案(PPT)
- ・資料3:地域生活圏に関連する事例について

5月8日(月)10:30～11:30

有福温泉「ありふくよしだや」若女将 佐々木委員

#### ■ 第1部 骨子の公表について

- 担い手不足もあり周辺は荒廃農地が非常に多い。広島や東京の企業が入ってきており、その収益は都市に還元されている点を懸念している。資金力や発想力の面で都市のパワーには圧倒される。
- 観光客のニーズとしても、自然は当然ながら(施設の)新しきやきれいさを求められる。ネット環境も最近整ってきた。上下水道なども、中途半端であると逆に呼び込むことは難しいと感じる。
- 有福温泉でも、若い人が流出しており、10年後集落がどうなっているか心配。時々転入希望者の声も聞くが、空き家があっても住めるところがない。
- 行政の空き家バンク施策もあるが、高齢者であると登録の手続きすら難しい状態。
- 最近、都心から地域に移住する動きが感じられる。コロナ禍において、3組程度、移住した事例を聞いた。受け入れ態勢を作ることが大切。江津市はUIJタウン補助金など積極的に取り組んでいる。
- 地方への移住者や新規参入企業と地域住民との軋轢が生じるケースがあると思うが、すれ違いが原因の様思う。参入企業が地域の活動に参加する等すれば、すれ違いの解消にもなり、企業参入のハードルがさがるのではないか。
- 観光でいうと大阪万博など周辺のイベントを契機とした呼び込みのアプローチが弱いように感じる。インバウンドなども認知度がかなり低い。ただし、来られると満足度は高いので、口コミが広まることに期待。

#### ■ 第2部 地域生活圏について

- 特になし。

5月8日(月)15:50~17:00

一般社団法人データクレイドル 代表理事 大島委員

■ 第1部 骨子の公表について

○前回学識者会議でも話のあった、全体像を示す「キャッチコピー」の様なものを示すのが良いと思う。今後、広域地方計画本文を策定するなかで、よく議論していきたい。

■ 第2部 地域生活圏について

- 地域生活圏は機能確保と、サービス提供エリアの両方の視点から考える必要がある。
- どちらかという行政サービスのエリアのイメージを強く感じる。通勤圏・通学圏、学校保育や産業集積がどこにあるかなど、なおかつそれを繋ぐには交通が必要というのが生活圏なのか、そこに人がいるからデジタルなどを活用してサービスを確保するというイメージがある。  
総務省でも同じ様な取組がある。差別化が必要である。
- 圏域形成のモデルは一つではないのではないか。通勤や通学、産業集積など人がいるから生まれるサービスのレイヤーが地形的な条件によって広がるものが地域生活圏のイメージだと考える。
- 色々な生活の中で、「○○の道」といった、歴史的なつながりがあるように感じる。

5月9日(火)13:30~14:35

岡山大学大学院 環境生命科学学域 准教授 氏原委員

■ 第1部 骨子の公表について

○骨子案については、十分に書き込まれている。

■ 第2部 地域生活圏について

- 地域生活圏のエリアを固定させた方が良いのか。または、ある程度柔軟なエリア設定が良いのか。それぞれの分野で得意とする圏域（例えば商圈など）もあり、エリアの固定化は難しいと感じる。
- 商圈のような市場原理に基づくものもあれば、例えば公共交通など行政的にかかわらなければならない圏域もあり、提供されるサービスによってエリアは変わってくる。地方生活圏として線引きすることは現実的に難しいと思う。
- 整理の仕方として、日常生活を対象とした場合のそれぞれのサービス提供エリアの最大公約数を設定すると良いかとも思ったが、地域生活圏は1つの答えにはならないことから、特定の課題を取り上げて、地域連携で解決している事例を紹介するのは有効であるのではないか。今回の資料のようにスケールのまったく違うスケールの事例を出すことがリアルかもしれない。

5月10日(水)10:00~11:00

山口大学大学院 創成科学研究科 教授 鈴木委員

■ 第1部 骨子の公表について

- 骨子の骨子については了解。特に異論はない。キーワードが大事になってくると思う。
- 「レジリエンス」「医療・福祉面の機能の確保」「日常からの対応で災害時にも切れ目無い対応」というキーワードが入ってくるとよいのではないか。次期広域地方計画は、今後概ね10年の将来を

見据えたものであり、今後将来の新たなキーワードになり得るものとして、これら3点のキーワードをお伝えする。

## ■ 第2部 地域生活圏について

○岩国市は広島圏域（通勤通学）、下関市は北九州圏域、福山市も岡山県圏域を含んでいる。日常の生活圏の実態は非常に複雑である。今後も色々な事例を調査する必要があると考える。最終的にはパブリックコメントが重要である。

## ■ その他

○大雨災害や南海トラフ地震への対応が重要、また、内陸地震の場合も甚大な被害が想定されるため震災対策はしっかり取り組む必要がある。今後の本文作成において、中国地方の防災減災が目立つように書き込んでほしい。

5月10日(水)13:30~14:45

一般社団法人中国経済連合会 専務理事 谷口委員

## ■ 第1部 骨子の公表について

- 現行計画と今回計画との違い。他圏域の広域計画との違い。これらを意識することが必要。
- 中国管内に進出する半導体企業の動きがあるが、他の圏域と比較すると投資規模が小さいと感じている。
- カーボンニュートラルに係る産業集積や港湾整備など、これらが中国圏のポイント。コンビナートを次の世代にあったように成長させていく事が中国圏のポイントかと思う。
- 中山間地域の小さな拠点の取組を次のステージに育てていくかという考えもあるのではないか。
- 農林水産の事もしっかり書く必要もあると考える。担い手が不足する中ではスマート農業を進めるなどが必要。スマート農業の芽も出ている。高付加価値化、ブランド化し、海外（東南アジアなど）と直接取引・進出することも検討されている。陸地で水産養殖する新しい一次産業の形ということもあるのではないか。
- 計画策定の意義が必要。記載されている施策については、各関係機関が同じ方向を向いて取り組んでいかなければいけない。また、経済界と各県が会議等で連携して取り組んでいかなければいけない。

## ■ 第2部 地域生活圏について

- 土地に愛着を持っている人が、デジタル等も活用し、満足度を高めながら暮らし続けていけるようにすることが地域生活圏の一つの考え方と思う。
- 地方では郵便やガス、水道など、公共サービスは一手に引き受ける形で提供できれば、中山間の新しい仕事の形になるのではないか。小さな拠点の延長など。

## ■ その他

○広域地方計画を策定する過程で、構成機関の皆で考える機会が生まれることは良いことである。

5月10日(水)15:20~16:40

株式会社中国新聞社 論説委員 高橋委員

### ■ 第1部 骨子の公表について

- 地域生活圏は中国圏としてどのようなところを目指していくのかがポイントでは。国は東京一極集中の課題があり、多極分散型な都市を目指している。中国圏もデジタル、官民協働、あらゆるものを総動員して、持続可能な地域づくりをシームレスに取り組んでいくことが必要。それらを踏まえ、暮らしに、「中国圏こそ分散型国土の受け皿」という趣旨のキーワードを盛り込んでほしい。
- 九州の半導体、東北の洋上風力があるが、中国圏の産業の目玉は何になるのか。コンビナートなどの産業集積が言えるのではないか。
- 安全安心の将来像(3つ目)のソフトの部分をもう少し、官民一緒となって取り組んでいくことを前面に出せないか。避難行動にとどまらず、住み方や流域治水の考え方など。

### ■ 第2部 地域生活圏について

- 中国圏の多様な地域生活圏の課題事例と、それに対する取組を整理した見せ方が良い。これまでの小さな拠点でももたないなど、切実感を記載する必要もある。

5月11日(木)10:00~11:00

島根大学 森委員

### ■ 第1部 骨子の公表について

- 住民が自らの意思でライフスタイルを選択できるとあるが、島根県は全国3位の高齢化率であり、人口減少下では地方部・山間部のバスの廃線などの公共交通の確保が課題となっている。免許を返納された高齢の方が通院のために交通を必要としている。その点を書き込んでもらいたい。
- 島根県は西部になるほど高齢化率が高まるので、IT技術の活用など自らの意思で生活できる環境整備を進めてもらいたい。

### ■ 第2部 地域生活圏について

- 実態として、生活をする場、働く場が実際には距離がある。議論をする上で、資料のような自治体の地図が必要だが、美郷町の例だと、居住は町内だが学校や職場は町外であり生活の場は自家用車を用いることでより広域になっている。と聞いた事がある。
- 美郷町は条件不利をIT化の推進で克服している。そうした観点としては先進的な取り組みだと考えている。
- ICTを活用した教育については飯南町においても、都会の塾講師の講義をPCから受講が可能で、都会と条件が変わらないことが魅力となり高校留学を呼び込んでいる。地理的な条件を変えることは出来ないので、教育の環境がデジタルの活用で都会と遜色ない環境を整備できることが今後メリットとなる。
- 島根県は大学卒業後の島根県定着率が悪い。改善策としては、テレワーク環境を整備することなどで若者の働く場や賃金について都会と同じ環境を提供するしかない。
- ショッピングなどはデジタルで代替することは出来ても、教育やリアルな娯楽などについては都市

の充実度が非常に高いため、若者が戻ってこない事態となっている。一方で、高齢者は出たくても出ることができず、若者の流出と対極的に二極化が進んでいるのが中国圏の特徴である。

**5月11日(木)11:00~12:00**

**呉工業高等専門学校 神田委員**

**■ 第1部 骨子の公表について**

○産業の目線としては、産業用地の不足の問題も認識している。中国地方の産業発展のためには有効な土地が少ないので、環境に配慮した土地開発が必要と感じている。

「活力を誘発する産業拠点の創出」といった趣旨の文書を追加すると良いのではないか。

**■ 第2部 地域生活圏について**

○無理に地域を合体することで10万人を目指す必要はないと感じている。

○すでに平成の大合併で形成された地域は、地域の生活実態に沿った圏域形成になっているのではないか？中国圏の若者や高齢者といったペルソナが持つ課題に対する機能確保を提示することで、中国圏らしい部分を出すことができるのではないか。

**5月12日(金)13:20~15:00**

**鳥取大学 谷本委員**

**■ 第1部 骨子の公表について**

○日本全体にとって、中国地方がどのように活躍するか、もう少しクローズアップする必要があるのではないか。例えば、防災では近畿圏等の他圏域のバックアップなど中国圏の強みが日本全体のためにどう生かされるのかといった視点で整理しては。

○公共交通は圏域を跨ぐなどはあると思うが、個々の取組を俯瞰的に見た上での方向性を示す視点が重要ではないか。

○中国地方は田舎、地方部であるが、他地域の中山間地域に比べ、「便利な田舎」という特徴があるように思う。山陽道よりも先に、中国道が完成しており、そういった地区は全国にもないかと思う。観光でも出雲大社は最も古い歴史があることからもうってつけであると考え。

○従前の方法を踏襲しながらデジタル技術を使えば効率性が上がるという話ではない。単に生産性向上や効率化が目的ではなく、目的を達成するために、デジタルに合わせて従来の方法を変えること、デジタルの最適な活用が重要である。

○中国地方は人口減少の先進地と言われているが、人口が少ないからこそ社会実装の先進地になることができないか。マイナスをプラスに変えるイノベーションの視点が重要と言える。

**■ 第2部 地域生活圏について**

○地域生活圏を打ち出す目的と、その圏域の範囲設定は難しいと思われる。

○圏域を区切るのはロジックが必要かと思われる。

5月15日(月)11:00~12:00

山口大学 齋藤委員

### ■ 第1部 骨子の公表について

- 「加工組立型産業」という記載について、若干の違和感がある。中国地方のうち、山口県は素材型産業も盛んであるため。
- 今年のGWでは、インバウンド復活の兆しもある。アフターコロナ・ポストコロナにシフトした記述が必要ではないか。

### ■ 第2部 地域生活圏について

- 山口市北部の阿東地福地区の取り組みは、小さな拠点に該当する。地福地区での店舗運営を中心に、地福、嘉年、生雲地区などに移動販売も行っていて、防災や見守りの観点での取り組みも行っている（NPO 法人ほほえみの郷トイトイ）。移動販売時には、スタッフが小型カメラを付けて買い物客を撮影し、高齢者の見守りにも活用している（契約した遠隔地の家族へ配信）。また、生雲地区の蔵目喜という地域は、二地域居住にもなると思うが、山口市の市街地に居住しながら、耕作を行うために通っているという事例を約十年前に聞いたことがある。
- 美祢市の赤郷地区も小さな拠点としてのまちづくりに取り組んでいる地域である。ドローンを活用した配送実験を官民連携で行ったが、その時にはまだ住民からの需要がなく、少し先進しすぎた面もあったと聞いた。
- 山口市は重層的なコンパクトシティを目指している。旧山口市と旧小郡市を拠点として位置付けている。柳井市もコンパクトシティを先駆的に進めていたが、コロナ禍以降、話を聞いていない。
- 岡山県新見市（旧哲西町）では、地域に必要な施設を1ヵ所に集約化して、拠点化し、行政窓口サービスなどを提供。
- 地域生活圏は、国勢調査などの通勤・通学流動を見ることから始まるかもしれない。
- 山大生でもエンタメはデジタルが進んだためか、東京志向は割と低くなった。地元志向高まった感じがする。

5月15日(月)15:30~16:40

島根県立大学 田中委員

### ■ 第1部 骨子の公表について

- 特に気になる点はなし。

### ■ 第2部 地域生活圏について

- 出てきていない観点でいえば「地域未来留学」という取組。例えば高校3年間だけ島根県にきて学んで帰ってくるという取組が島根県では多くなっている。関係人口に近い取り組み。統廃合を避ける取組。「中国地方らしさ」の一つにはなるのではないか。
- 地域の自然に魅力を感じている親御さんがかなりいる。説明会を開くとかなりの人数が集まる。島根県ではもともと寮があるところが多く、それが活かされている。保護者の方から探してくるケースが多いと聞いている。「お試し」というキーワードが魅力ではないか。

- 県立大学などをしっかり強化して、地域内の人材を育てていく県内循環と、県外からの受け入れを進めていくことは、中国地方ではうまくいくのではないかと思う。
- 高校生については、移動の足に限界がある。結果、寮がある学校が先行しているが、移動が確保できれば「下宿」なども視野に入ってくるのではないか。
- 「でも・だから」の考えの両方が必要。都市でもできることを地方でもできる、地方だからこそできることを伸ばすという2つの考え。
- 「地域づくり」も島根県はすすんでいる。
- 「地域未来留学」では、農業など個別メニューより、地域の人と学べる（探求学習）、つながりができる学習を望んでいるようだ。隠岐や津和野など人気が高いと聞いた。農業がしたいのでなく「農」のある暮らしを望んでいるようである。
- 課題先進圏として、中国圏には、逆にすごいポテンシャルが潜んでいると感じている。
- 広島有加計高校が、定員割れから一転して、倍率2倍となるなど、今話題になっている。

**5月16日(火)10:30~12:00**

**福山市立大学大学院 都市経営学研究科 教授 渡邊座長**

**■ 第1部 骨子の公表について**

- 農漁業の生産地と消費地とが近接しているのが中国圏の特徴の一つと考える。新鮮なものが道の駅で売っているなど、農産物の優位性が高いと感じる。
- 神田委員のご指摘の「活力を誘発する産業拠点の創出」の件については、低未利用地の再開発も含めて考えていけるとよい。

**■ 第2部 地域生活圏について**

- 「レイヤー(分野)ごとに課題と戦略から圏域は異なる」とあるが、なかなか難しいテーマである。重層的な都市構造の一つのレイヤーが地域生活圏になるのではないか。
- 交流人口を考えると、島根の例のようにお試し留学などの考え方は良いと思う。出雲にも首都圏の保養所があり、一般にも利用されている。多目的に交流人口を受け入れる施設。
- 笠岡・井原は、高梁川流域(生活・自然)にも備後圏域(買い物)にも含まれていると思う。重層的な圏域が重なっているという概念になるのでは。
- 中国圏らしさは具体的な事例を示せる様、今後検討して頂きたい。

以上